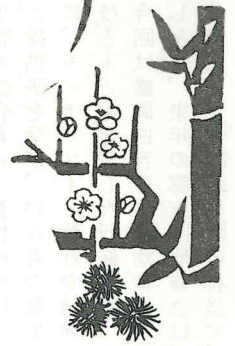


# 仙台司教区 教区事務所だより



(第 27 号)  
昭和 55 年 1 月 1 日

## 年 頭 の 辞

司教・佐藤千敬

新年あけまして、

おめでとうございます。

年の始めにあたり、仙台教区の信徒、修道者、司祭の皆さまに心からの御祝詞を申し上げます。新しい年が、神さまの恵みますます豊かな年でありますように祈ります。

\*

波乱含みの八〇年代、何かそのような感じがします。世界の情勢を見ても、国内の政治・経済の動きを見ても、年は新たに変わったとはいえず、一抹の不安と、何かとまどいを禁じ得ません。インドシナ半島の動乱、飢餓と病苦に悩む多くの難民の上を思うとき、八〇年代はどうなるのだろうか？ と考え込んでしまいます。

けれども私たちは「信じる者」なのです。私たちは「キリスト者」なのです。聖パウロ

がコロサイの信徒へ送った手紙の中でこう言っています。

『あなたたちは、主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストと一致した生活をなささい。キリストに根を下ろして、その上に信仰生活を築き、教えられたとおり信仰をしっかりと守って、あふれるばかりに感謝しなさい。…キリストの内には、満ちあふれる神性が、余すところなく、見える形をとって宿っており、あなたたちは、キリストにおいて満たされているのです。キリストはすべての支配や権威の霊の上にあるからです。』(コロサイ 2 の 6-10)

キリスト者の信仰生活とは、日々の生活の中で、福音の光に照らされ、主キリストの教えを基準として「選択」を積み重ねてゆくという事です。私たちは毎日の生活において、

大なり小なり、右すべきか左すべきか、どちらを選択すべきかという場に立たされます。これを買おうかあれを買おうか？ 今買おうか後で買おうか？ 今は買うのを止めてベトナム難民のための小さな助けとしようか？ 欲しいものは欲しいのだ。だが待てよ、主キリストは言われたではないか。『人にしてもらいたいと思うことはなんでも、あなたたちも人にしてやりなさい。』(マタイ 7 の 12) カンボジアの難民の一人だったら、自分は何をして欲しいと思うだろうか？

\*

今年一年、信じる者、キリスト者として誠実に生き抜いていきたいものです。

## 人 事

グアダルペ外国宣教会では、アントニオ・バルデス師にかわり、新管区長として11月から喜多方教会主任ホセ・モンロイ師が就任した。

~~~~~

## 司教様の日程 (12月10日現在)

- 1月1日 元旦ミサ 元寺小路司教座聖堂 (10時)
- 5日 邦人司祭役員会
- 6日 御公現ミサ 元寺小路司教座聖堂 (9時半)
- 7日 聖ライムンド(司教修道道祝日)
- 14~16日 仙台教区カテキスタ会研修会
- 15日 横浜司教着座式
- 24日 社会福祉法人理事会
- 28日 邦人司祭月例会

ナザレト幼稚園

＊ 新園舎 祝別



12月8日、無原罪の聖母の祝日に、聖ヨゼフ会館のナザレト幼稚園（園長岡野きよ）の新園舎落成による祝別式及び落成式が多数の関係者参列のもとに行われた。午前10時から、佐藤司教による定礎式、祝別式が行われ、続いて落成式が、聖歌と祈りによって始められ、各方面の祝辞が続いた。終わりに園児全員が感謝のことばをのべ、子供達も、この喜びを共にした。その後祝宴が続き、緑に囲まれた環境の中に建つ美しい園舎を祝福した。ナザレト幼稚園は、老朽化しつつあった園舎が一昨年の地震で使用不可能になったため、改装にふみ切り、昨年3月20日に工事着工、11月30日に鉄筋コンクリート二階建て延床面積一五七六・四四㎡の新園舎が完成したものである。

～ 秋の叙勲 ～

佐藤直助氏 勲三等

去る11月3日、秋の叙勲で榮譽に浴した人達が発表されたが、その中でカトリック関係で仙台教区では、元上智大学教授、現三島学園女子大学長・佐藤直助氏が、勲三等旭日中綬章が授与された。

氏の長年の教育界に尽くした功労が認められたものとして、共に喜びたい。

第四回

日本モンテッソーリ協会

東北支部 研修会



日本モンテッソーリ協会東北支部（支部長鷹齋達衛師）では、去る11月9・10の両日、盛岡市つなぎ温泉ホテル大観を会場に、東北6県に在住する同協会会員のための研修会を開催した。

第一日目は、京都聖母女学院短期大学教授相良敦子先生を講師に「モンテッソーリ教育理解のポイント」、「人間の成熟とモンテッソーリ教育」のテーマで、午前と午後の2回にわたる講演を聴き、また東京都町田市にあるモンテッソーリ教育実施園、高根第一保育園における記録映画「0歳からの出発」を観賞。さらに夜は、はじめての一泊研修ということもあって、夕食後歌あり踊りありコントありの楽しい懇親会にしばし安らぎのひとつを過ごした。

第二日目は、東京国際モンテッソーリ教師トレーニングセンター所長・松本静子先生による「生物の絵合わせ」教材について、教材の作成と提供法を学び、約百名の参加者はそれぞれに、モンテッソーリ教育の精神面、理論、実技ともども充実した研修を行った。なお今回は盛岡白百合学園幼稚園が事務局を担当したが、来年の第五回研修会は、11月中旬、仙台白百合学園幼稚園の担当で、仙台市を会場に開催されることが決定した。

東北地区私立小学校

教員研修会 開く



去る11月10日(土)、聖ウルスラ学院小学校において、第9回東北地区私立小学校教育研修会が開かれた。東北9カトリック小学校のほとんどの教員百余名が参加し、今年度のテーマ「子どもの考えを生かす学習指導法の研究」と、副題「望ましい人間関係を育て、学習効果を高めるための学級経営」について研修した。まず全体会では、盛岡白百合、仙台白百合、会津若松ザベリオ、郡山ザベリオ、聖ドミニコの各校代表の先生による提案発表が行われ、続いてそれぞれの分科会に分かれ、話し合いを深めた。

なお、この研修会のために、宮城県・仙台市からも来賓が参列。現代の児童教育の困難と共に、私立小学校に寄せる期待を祝辞の中で強調された。参加教員一同、一般の人々から寄せられるこの期待を膚に感じ、一層キリスト教的教育観にもとづいた教育に尽力することを誓い、研修会を終了した。

恒例のターグング一月開催

カトリックとプロテスタントが合同して研修するターグングが、佐々木博神父を講師に、「日本人への福音」をテーマに行われる。

日程は1月27・28日で茂庭荘が会場である。

(詳細は笹気直哉師まで)

一月一日は

### 世界平和の日



年の始め、一月一日は「世界平和の日」である。毎年、全カトリック者がこの日、世界の平和のため、特別にミサと祈りを献げる。

各地で続けられている戦争が、一刻も早く終止符を打つように、又、最も身近な人々同士、争いをまずなくそうとの努力がなされるように、そして、新たに明けた一九八〇年が主の祝福で満たされるよう、共に祈ろう。

「すべてを治められる神よ、あなたは、平和をもたらず者が、あなたの子ともと呼ばれることを示してくださいました。」

まことの平和のいしずえである正義を樹立するため、絶えまなく働く力を、わたしたちにお与え下さい。(平和のためのミサの祈りから)

### 「み国が来ますように」

#### キリスト教一致祈禱週間

今年も、キリスト教一致祈禱週間が、1月18日から25日まで行われる。この週間は、聖公会司祭で、後にカトリックに改宗したワットソン神父が一九〇八年に始めたもので、聖ペトロが、教皇座をアンチオキアからローマに移したことを記念して、18日を起点に聖パウロの回心の祝日にあたる25日までの8日間である。共同訳聖書をはじめ、カトリックと

プロテスタントの教会は同じイエスを主と呼ぶ兄弟として、共に働いて欲しい。

今年のテーマは、「み国が来ますように」である。この世界は、ますます戦争、貧困、不正等の悪に犯されつつある。「み国が来ますように」とのテーマは、このような状況にあつて本当に意味があり、これまでになかったような適切さを帯びている。

仙台教区でも各地で、プロテスタントの人々と共に祈る集いが計画されている。この週間、特に心をあわせて、み国が来ますようにと、祈りたいものである。

### 宮城県信徒大会を終えて



去る10月28日(日) 聖ウルスラ学院において、宮城県信徒大会が開かれ、県内から老若男女二五八名が参加。講演と話し合いを通して、自己の信仰の再確認の機会とした。

最初に、イエズス会の土屋神父様の講演、「キリスト教とは何か」を、午前中たっぷり学んだ。その要旨は、次の通りである。

「キリスト教とは、神のことばと救いの業が行われていることを絶えず信仰告白するグループであり、我々キリスト者自身がキリスト教であることを忘れてはならない。キリスト教は、いわゆる宗教(安心立命的な)でも、単なる道徳教育、社会思想の一つである、と考へてはならない。福音の根源にもどつて考へるべきである」と、本質的な事を明快に話された。その後昼食をはさんで、8つの分科会

に分かれ、話し合いが行われ、それぞれ20名から30名の参加者が活発に意見を交換した。

また幼児は、童話「モチモチの木」を読んだ後、絵をかく作業、小中学生は「兎の眼」の映画を観賞後話し合い、高校生は、土屋師の講演について高校生としての理解を深めるために分かちあひをした。

分科会の後、佐藤司教を中心に宮城県下の司祭十数名による共同ミサが行われ、54年度の宮城県信徒大会を終了した。

なおテーマが昨年に引き続き「福音宣教」であったため、一層の深まりを期待されたが、盛り上がりには乏しかったとの反省が出されている。又、青少年の部でも参加者が少なく、55年度の大会をめざして、各教会の意識の浸透と、数年続けられているこの信徒大会を、もう一度見直す時期が来ているようである。

### 写真展「子供の顔」

仙台・ジャスコで公開

仙台YBUでは、すでに盛岡で好評を博した志家教会のヨゼフ・シュミドリッソンの写真展を、ジャスコ仙台店で11月23日から6日間に渡って公開した。同時に、在仙カトリック三校(白百合、ウルスラ、ドミニコ)の生徒作品も展示。又、マザー・テレサのスライドも上映されるなど、国際児童年の催しとして人々の関心呼び、多くの入場者があった。会場整理には、ポイスカウトが、受付には、各教会の有志が担当して協力。この催しを盛り上げた。



当教会の日曜学校は昭和47年頃、信者の方  
方や付属幼稚園の父兄の要請によって始まり  
ました。

十二、三名の子供達でスタートしましたが、  
現在は四歳の幼児から小学六年生まで六十余  
名(内信者20名)となり、平常40名位出席し  
ています。

月3回の日曜学校を行っています。今年  
度から、学んだことを体験させる方法を考え、  
隣人愛の精神を実際に生かす機会を持つため  
に、第四日曜日を「奉仕の日」と決め、借用  
する幼稚園舎の掃除や窓ガラスふき、近所の  
バス停の掃除、施設の庭掃除をいたしました。  
この体験の後子供達から、「つかれたけれどど  
気持ちよかったです」、「またやりたい」、「た  
のしかった」などという声が聞かれました。  
その他年間行事としては、恵まれた自然環  
境(野草園、動物公園、天主台公園)の中での  
遠足、夏期合宿、七五三、クリスマス会、  
施設慰問などがあります。今年はじめて福寿

苑を慰問いたしますが、このために、子供達  
は夏休みを利用して軍手人形を作ったり、手  
製のXマスカードを作ったり、各家庭から持  
ち寄った石けん、タオル等をきれいに包み、  
贈り物も準備しました。今はクリスマススの喜  
びを伝えるために聖誕の紙芝居、聖歌練習に  
一生懸命です。

父兄との交流をはかるために、49年から、  
二か月に一度、通信「ひよこ」を発行してい  
ます。又、年度始めには父兄会を開き、日曜  
学校の方針を説明し協力して頂いております。

初聖体を終えた信者の子供達のために、毎  
月一回聖書の分かち合い、要理教育、ゆるし  
の秘跡などを行っています。今年は3月末に  
八木山修道院で、7名が参加して初聖体直前  
の黙想会を行いました。子供達にとって沈黙  
と静けさの中の祈りの体験は、心に深い印  
象を残したようでした。このような黙想会を  
毎年一回行いたいと考えております。

当日曜学校の教師は4名(男1、女3)で  
臨時に手伝って下さる方もいて恵まれていま  
す。又、当教会における日曜学校の位置づけ  
が明確になっており、神父様はじめ信徒の方  
方の理解と積極的な協力があるので、教師に  
は非常に助けとなっています。

今年度は、ひとつのテーマの下に独自の年  
間計画を立案し実施してきましたが、教師一  
同いつも悩みの中にありながら、暗中模索し  
つつ善きものを求めて前進しようとする努力し  
ております。

自分達の無力さを感じながらも主に信頼し

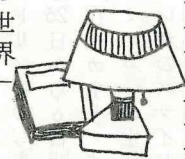
つつ、みことばの種をまく使命に燃えている  
この頃です。

(八木山教会日曜学校  
Sr青郷)

良書案内

写真集「新約聖書の世界」

小学館発行



世界で初めてといわれる「聖書」を  
主題とした写真集が、白川義員作品集  
「新約聖書の世界」として、小学館か  
ら刊行された。

取材に当たった写真家の白川義員(よ  
しかず)氏は、世界的な山岳写真家と  
して不動の地位を築いている。氏の、  
聖書の世界への取り組みは、準備期間  
2年、取材期間3年を費し、計14か国、  
一、二九か所のロケを敢行。その総走距  
離は四万七千キロに及び、航空取材も  
60回。撮影したカラー写真は、実に2  
万枚を数えたという。

内容

- (1) イエスの生涯
- (2) 使徒の足跡
- (3) 死海
- A3判 総二〇六頁
- 収録カラー写真 89枚
- 解説 64頁 地図 4頁
- 定価 二万八千円

上  
テレフォン  
紙  
サービス



献金の心 (上)

「教会維持費は、一体どの位納めたらよいのですか?」

「献金は、どの位したらよいのでしょうか?」  
と聞かれることがよくあります。昔の公教会(カトリック教会)祈禱文を開いてみると、公教会の六つの掟の第六に、

「各々の分にに応じて、教会維持費を負担すべし」とあります。各々の分とは、どのように考えるべきなのでしょう。ここでは、維持費と献金を区別せずに、維持費も広い意味の献金として、考えてみましょう。

献金は、第一に神様のお恵みに対する感謝のしるしです。

第二に、神様への信頼のしるし、  
第三に、礼拝、償い、交わりのしるし、と  
いってよいでしょう。

\* \* \* \* \*

第一に、献金は、神様への感謝のしるしです。献金、特に維持費を、グループの会費のように考える人もいるようですが、そのような理解は、ちょっと足りないと思います。

献金の心を端的に表わした話があります。カナダ聖ドミニコ会のB神父様が、ある時

結婚の司式をしたことがありました。前庭で記念撮影も終わり、幸福に胸をはずませて、お嬢さんが、神父様のところにきて、言いました。

「神父様、お礼をいかほど差し上げたらよろしいでしょうか」神父様は答えました。  
「あなたの、花嫁さんに対する愛の深さに応じて、どうぞ。」

この花嫁さんが、いくらお礼を差し上げたか知りませんが、この話を聞いて、私は、成る程と思いました。

結婚によって得られる幸福は、お金にかえられません。その喜びが大きければ大きい程そのような出発をさせて下さった神様への感謝も大きいはず。それを、いくらいくらと決めることはできません。(結婚式のお礼を、手数料と考えるなら別ですが。)

その額は、自ら、その人の喜びの深さと、その人の富の豊かさによって異なります。

大金持ちだったら20万出しても惜しくないでしょうし、貧しい人だったら、千円でも、自分の感謝を示すのにふさわしい額でもあるでしょう。

教会の維持費、献金も同じです。その人がその人生を生きるに当たって、教会を通して与えられる神の恵み、神との交わり、霊的よろこびの有り難さを思えば、自ら感謝のしるしとしての奉獻が、ささげられるでしょう。そして、その人の感謝の心の深さと、その人の財力の程度に応じて、額は、自ら定まってくるでしょう。

社会的地位があり、多額の月収を得ている人が、五百円か千円の維持費献金だったら心が残るでしょうし、神様に感謝を感じていない人だったら、百円が五十円でも、惜しく感じられるでしょう。

これは、私達の信仰の程度にも応じるものなのです。(吉田昌民神父) (つづく)

CLC久々の練成会

リバス師を囲んで



去る12月1・2日、仙台一本杉の聖ウルスラ学院家政専門学校において、CLCの練成会が行われた。1日は、参加者18名(社会人、学生、高校生、司祭、修道女)で、イエズス会のリバス師と、北海道出身の神学生吉村氏の指導の下に、テーマ「生きる」を中心に話しあいと分かちあいの時を持った。2日の午後は、更に8名のメンバーを加え、26名が参加。リバス師の話を中心に、

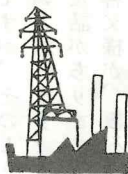
「あなたにとって生きるとは何ですか」

「いつ、あなたは一番「生きた」という体験をしますか」

について、分かちあった。

仙台においてCLCは、社会人、学生が中心になって、昭和53年5月に発足、各自の信仰生活を深めるため、毎月1・2回の例会を持ち、信仰と生活体験の分かちあいを地道に行っている。

三二情報



● 教区立幼稚園の一部学法人化の方向へ

私立・宗法立幼稚園の学法人化問題は、ここ数年、存立にかかわる大きな問題として論議を呼んでいるが、35の教区立幼稚園を擁している仙台司教区も、その決定には慎重を期し、未だに結論を出していないが、12月7日の責任役員会は、幼稚園委員会（委員長鷹皆達衛師）の「教区立幼稚園の学法人化問題に関する答申書」を基にして、邦人司祭団管轄下の幼稚園に限り、学法人化する方向にすすむ姿勢を打ち出した。

学法人設立発起人には、児山、鷹皆、吉田、横島、佐藤（守）の各師が任命され、その具体化に取り組むこととなる。

● カテドラテイクム、1%アップ

教区事務所では、最近の公益事業（幼稚園事業）部門の事務量と人件費の増大と、今後の教区的事業の充実を意図して、カテドラテイクムの増額を希望していたが、9月24日、並びに11月12日に開かれた司牧評議会・司祭評議会の承認も得られたので、責任役員会は、昭和54年度カテドラテイクムから、従来の7%を1%アップして、8%とすることを決定した。

カテドラテイクムというのは、各小教区が司教区に納める納付金をいい、仙台司教区では、信者が小教区に納める年間維持費、日曜献金、大祝日献金の総額の7%と定めていた。今回の決定で、それが8%となる。ちなみに、昨年53年度のカテドラテイクムは五〇五八七七円だった。又、この総額の1%は、教区の納付献金としてローマ聖座に送金される。

● カリタス・ジャパン福引券

仙台司教区内当選番号  
毎年、カリタス・ジャパンでは、チャリティー募金を行っているが、今年は、アジア地区難民救済、ハンセン氏病患者救済、その他緊急災害救済を目的として、第四回チャリティー募金を行った。仙台司教区でも協力し、割当福引券を消化したが、仙台司教区内では、次の番号が当選している。  
〇一〇二五四一（5等）仙台白百合学園取り扱いの分  
〇一五二五四一（5等）暁星園取り扱いの分  
〇一〇三五二八（6等）ペトレム会取扱いの分  
ちなみに、5等賞品は、ギフト旅行券、6等は、メモリー付電子計算器である。

訂正 12月号3頁の修女連新役員中、次のように訂正し、おわびします。  
◎書記 Sr 目黒富久子（ウルスラ会）本年3月まで

【編集後記】

◎ 新年おめでとうございます。今年こそ、悪魔よ去れ！のサル年でありますように。マザー・テレサのように、平和の子が活躍する年になるようお互いに努めましょう。



読者のページ

俳句 富士 寒子

日日に新菊香る庭散歩せり  
サンタマリア菊の花をば捧げけり  
秋たけてロザリオ祈る亡き父母に  
落ち葉たく煙窓辺を入りきぬ  
松風のさわぐうら山雪しぐれ  
降誕祭催す会議みな笑顔

短歌 (一関教会報より)

千葉 千代子  
ほお白の群れ来てさわぐウメモドキ  
傾く没り陽のあかき寂しさ  
千葉 孝  
教会の始業の鐘の聞え来て  
おくるる思いにベタル踏みしむ  
札幌市 武藤 寂花  
晴れ渡る空にアンジェルス の鐘鳴りて  
修道院の一と日はじまる

仙台司教区事務所だより第27号  
昭和五十五年一月一日発行  
発行所 仙台司教区事務所  
〒980 仙台市本町一丁目2番12号

TEL 0222 22 7371